

2024年度(令和6年度)関西創価中学校 学校評価

◇ 教育基本方針

- <1>【創造】 いかなる環境にあっても価値を見いだし、自他共の幸福に貢献する力をつける
- <2>【自律】 自分で考え、自ら計画・実行し、主体的に学ぶ力をつける
- <3>【尊重】 他者との違いを認め、ありのままを受け入れつつ、心を繋ぐ力をつける

◇ 教育活動・実践における重点項目

〔Ⅰ〕教育理念に基づく「人間教育」の推進

- (1) 価値創造の育成
 - 創立者の哲学を学び、実践を通して創立精神を学ぶ。
 - 講演会や懇談会を通して、社会性を学び、世界市民の資質を育てる。
- (2) 自律・主体性の育成
 - 自ら学び、互いに学び合う学習習慣を身につける。
 - 探究プログラムを通して、多角的視点を養い、課題解決の力をつける。
- (3) 合意形成力の育成
 - 「話す力、聞く力、他者とつながる力」を育む。
- (4) ユネスコスクール・キャンディデート校の活動推進
 - ユネスコの掲げる学びの4本柱「知ることを学ぶ」「為すことを学ぶ」「人間として生きることを学ぶ」「共に生きることを学ぶ」に基づいた取り組みを推進する。

〔Ⅱ〕教育力向上への挑戦

- (1) 授業力向上の取り組み
 - 「主体的・対話的で深い学びの実現」を目指した授業改善を行う。
 - 計画的な教員研修を通して、教育スキルを磨く。
- (2) 生徒理解の取り組み
 - 生徒一人ひとりの状況を多角的に把握する。
 - 保護者との連携を深める。
- (3) 支援教育の取り組み
 - 授業における個別最適化を図る。
 - 生徒の個別最適化を推進する。

〔Ⅲ〕「安心・安全」の学園生活への実践

- (1) 生徒の自主的活動を通して、意識改革を図る。
 - 通学マナーの改善を図る。
 - 生徒会活動の活発化を図る。
- (2) 各種セミナーを通して正しい知識を身につけ、自己判断力の向上を図る。
 - 食育、ネット、防犯、防災、薬物乱用防止等のセミナーを開催する。

【自己評価アンケートの結果と分析】

【生徒アンケート結果の分析】

生徒は、教師の授業の工夫を高く評価する一方で、自身の学習への自己評価は低下している傾向にある。学習指導要領のもと、主体的な学びやグループワークなどを取り入れた結果、従来の学習方法への適応に生徒間で差が出ている。しかし、生徒の評価は全体的に肯定的な意見が90%以上を占め、1学期よりも2学期の評価が向上しており、新しい授業スタイルへの慣れや自身の成長を実感している様子がうかがえる。英語では、英検IBAとCSEスコア導入により、英語力の伸びが可視化され、学習スタイルの変化が英語力向上に繋がっている。生徒は、学びをより楽しく実践的にしたいと考えており、クイズ形式や異学年交流などを求めている。生徒は、学校生活の改善にも積極的で、挨拶運動や学校の美化活動、生徒主体のプロジェクトなどを提案している。

【保護者アンケート結果の分析】

保護者は、学校の教育目標がおおむね達成されていると感じており、特に担任や学年の教師が生徒に積極的に関わる姿勢を評価している。数学・英語の選択制授業やレベルアップ教室、外部講師の招へい、異文化交流なども好評である。保護者は、生徒の成長を実感しており、学習面では計画的な学習や読書習慣の定着、行事やクラブ活動を通しては責任感や協調性の向上、対人関係では他者への配慮や自己管理能力の向上などを挙げている。一方で、情報共有の強化(月間予定の詳細な配信や相談窓口の明確化など)、学びの充実(選択授業のフィードバックや授業見学機会の増加など)、学校生活の充実(生徒主体の文化祭や異学年交流など)に関する要望も寄せられている。

【教員アンケート結果の分析】

教師も学校目標の達成に手応えを感じており、特に教師間の協力体制や生徒主体の学びを支える環境が整いつつあることを評価している。教師は、生徒の主体性を尊重する意識を持ち、チーム担任制や選択授業の導入などを進めてきた。今後の課題として、探究的な学びの更なる充実や、プロジェクト学習、ディスカッション形式の授業など、生徒が主体的に学び、創造性を発揮できる機会の増加が挙げられている。学校の教育活動を広く発信するためのYouTube活用や、生徒が主体的に解決策を導き出す通学マナー改善なども提案されている。

【総合的な総括】

これらのアンケート結果から、学校は生徒の主体性を育む教育、多様な学び方に対応する教育、そして生徒・保護者・教職員が協力し合う学校づくりを進めていることがわかる。生徒の成長を実感する声が多く、教育活動全体への肯定的な評価が得られている一方で、情報発信の改善や学びの質の向上など、更なる発展のための課題も見えている。

【学校関係者評価委員会からの意見】

【よかった点】

子どもたちが学校生活を楽しみ、自主的に学ぶようになっている。
教員が生徒に対して「大丈夫？」など声かけをこまめにしてくれる。
チーム担任制により、一人の教員ではなく多くの教員と関われるようになった。
受験科目が2教科になり、受験生と保護者の負担が軽減された。
英検のCSEスコアが学期を追うごとに向上している。
小中高の連携が進み、段階的な学習体系が構築されつつある。
学会色が強いという誤解に反して、実際は多様性を重視した教育が行われている。
様々な教育的試みを積極的に行っている姿勢が評価できる。

【改善してほしい点】

オープンキャンパスなどの情報が伝わるタイミングが遅い。
チーム担任制について、保護者から「誰に相談すればよいかわかりづらい」という声がある。
定期テストがなく常に単元テストがある制度は、不器用な子どもにとって負担が大きい。
各教科や探究(総合学習)から課題が多く出されており、生徒がずっと何かに追われている状況となっていたり、班活動の中で一部の生徒に対する負担が大きい。
創立者の教えが形式的になっている面はないか。行動と理念の乖離が見られるのではないか。
英語・数学の選択制学習において、一部の学習層にはマッチしていない場合がある。
一部の生徒の通学マナー(右側通行など)が、良くないとときどき注意があると聞いている。

【今後の提案】

学園の良さをもっと積極的に発信するなど、広報活動を強化する。
オープンキャンパスなどの情報をより早く、広く伝える仕組みを構築する。
チーム担任制について、教員の人となり伝える機会を増やし、相談しやすい環境づくりをする。
テストのタイミングを各教科で調整するなど、生徒の学習負担を適切に分散させる工夫を学校として行う。
英語・数学の選択制について、保護者への丁寧な説明と不安解消のためのフォローを行う。
小中高のカリキュラムを工夫し、各校の連携・接続をスムーズにする。
創立者の精神を、生徒が自ら考え、感じ、行動に移せるような教育活動を行う。
保護者が学校に来る機会を増やし、教育活動への理解を深める努力をする。
通学マナーについて、生徒の自主的な取り組みの継続と促進をする。

【本年度の取り組みについて計画・実践・評価指標・自己評価】

中期的目標	今年度の重点目標	取組計画・内容	評価指標	自己評価
教育理念に基づく人間教育の推進	(1) 価値創造の育成			
	ア 創始者の哲学を学び、実践を通して創立精神を学ぶ	三行大行事を中心に、研修行事や道徳、HR等で創立精神を学ぶ	年間を通して創始道徳プログラムが確立できたか	年間を通じて創始道徳プログラムの体系化は進んだが、創立精神をより実質的に伝える工夫がさらに必要。
	イ 講演会や懇談会を通して、社会性を学び、世界市民の資質を育てる	文化講演会、グローバルセミナー、キャリアガイダンス、アメリカ創始大学生や卒業生との懇談会の実施	グローバルセミナー、卒業生との懇談会が計画性をもって十分実施できたか	文化講演会やグローバルセミナー、卒業生懇談会を実施し世界市民の資質育成に取り組んだ。外部講師招へいや異文化交流の機会が増え好評だが、より計画的な実施と体系的なプログラム構築が求められる。
	(2) 自律・主体性の育成			
	ア 自ら学び、互いに学び合う学習習慣を身につける	eラーニングの活用、自主的自立的なクラブ活動の運営を促進する	eラーニングの活用、クラブの自主的自律的な活動が推進できたか	主体的な学びとeラーニングの活用を促進し、学び合いの場を提供した。クラブ活動での自主的な活動は良くできているが、学習・活動のバランスに課題があり、生徒の負担感を軽減する工夫が必要。
	イ 探究プログラムを通して、多角的視点を養い、課題解決の力をつける	探究推進委員による年間を通した主体的対話的な探究学習、フィールドワークの実施	探究の取り組みが、年間を通して計画的に行われ、生徒の課題解決の力がついたか	探究推進委員主導で年間を通した主体的・対話的な学習とフィールドワークを実施。生徒の多角的視点や課題解決力は非常に向上した。しかし、班活動の負担感や進度の差があり、検討と工夫の余地がある。
	(3) 合意形成力の育成			
	ア 「話す力、聞く力、他者とつながる力」を育む	主体的、対話的な授業の推進。三行大行事、対話会、ビブリオバトルの実施	生徒の「話す力、聞く力、他者とつながる力」を、3学期末の探究発表会で評価	主体的・対話的な授業や三行大行事、ビブリオバトルを通して表現力とコミュニケーション力を育成。探究発表会では多くの生徒が成長を示したが、発表機会の偏りや苦手意識のある生徒へのサポートが今後の課題。
	(4) ユネスコスクール・キャンディデート校の活動推進			
	ユネスコの掲げる学びの4本柱「知ることを学ぶ」「為すことを学ぶ」「人間として生きること学ぶ」「共に生きること学ぶ」に基づいた取り組みを推進する	ユネスコの理念を学び、実践する学校を目指す	ユネスコの理念を学び、実践が行われているか	ユネスコの4本柱に基づく学びを推進し、知識習得と実践的スキル、人間性と共生の価値観を育成。保護者からの評価も高いが、理念と実践の一体化をさらに深め、日常の学校生活にも浸透させることが今後の課題としてあげられる。

中期的目標	今年度の重点目標	取組計画・内容	評価指標	自己評価
教育 力 向 上 へ の 挑 戦	(1) 授業力向上の取り組み			
	ア 「主体的・対話的で深い学びの実現」を目指した授業改善を推進する	学び合い授業などの推進、公開授業、研究授業の実施 日常的に互いの授業を参観しあう取り組みの実施	教員、生徒へのアンケートの実施による評価を行う	主体的・対話的で深い学びを目指し、学び合い授業や公開・研究授業を実施。教員間の授業参観も行った。生徒アンケートでは90%以上が肯定的評価だが、学習スタイルへの適応に個人差があり、さらなる授業の工夫が求められる。
	イ 計画的な教員研修を通して、教育スキルを磨く	月例研修・研究授業の実施、web研修・外部研修への参加推進と校内研修の充実に取り組む	月例研修、研究授業が実施できたか Find!アクティブラーナーの推進、研修受験数増加がみられたか	月例研修や研究授業を計画的に実施し、教員のスキル向上に取り組んだ。Webや外部研修参加も促進し、アクティブラーナー推進を図った。教員間の協力体制が強化され、生徒主体の学びを支える環境が整いつつある。
	(2) 生徒理解への取り組み			
	ア 生徒一人ひとりの状況を多角的に把握する	生徒個人面談、アンケート調査、カンファレンスの実施	担任は1学期は必ず生徒面談実施 他は随時行う 実施率100%を達成できたか	チーム担任制のもと個人面談を実施し、アンケート調査やカンファレンスで生徒情報を共有。面談実施率は高かったが、「誰に相談すればよいかわかりにくい」との声もあり、その改善のための工夫が必要。
	イ 保護者との連携を深める	家庭訪問、保護者面談、保護者会、ガイダンス、教育セミナーの実施	全員実施(オンライン実施を含む)できたか	保護者面談、保護者会やガイダンスをオンラインも活用して実施。随時家庭訪問も行った。保護者面談は全員できた。今後は、月間予定の詳細な共有を丁寧に行うこと、相談窓口をより明確化することが必要。
	(3) 支援教育への取り組み			
	ア 授業における個別最適化を図る	学年展開授業(英語・数学)の実施	数学・英語の取り組みが生徒の学びを促進したか	英語・数学で学年展開授業を実施し、生徒が自身の理解度や学習ペースに合わせて学べる環境を整えた。選択制は82%の生徒が主体的に選択できたと回答したが、一部の学習層にはマッチしていない場合もあり、さらなる工夫が必要。
	イ 生徒の個別最適化を推進する	サポート部の活動の充実(支援会議・教員研修の実施)、個別支援計画の作成	毎週の支援会議の実施、SC・SSWの連携を充実させる	定期的な支援会議を開催し、SC・SSWとの連携を強化した。個別支援計画の作成と実施により、生徒の特性に応じた支援体制を整えた。今後は、多様な学びの形態に対応したユニバーサルデザインの環境整備とさらなる個別最適化の推進を行って行く必要がある。

中期的目標	今年度の重点目標	取組計画・内容	評価指標	自己評価
安心安全の学園生活への実践	(1) 生徒の自主的活動を通して、意識改革を図る			
	通学マナーの改善を図る	通学路、電車内のマナー向上のための取組 安全セミナーの実施 マナー改善のための指導を日常的に行う	無事故を達成できたか 安全セミナーが開催されたか 生徒一人一人にマナーに関する意識が高まり、行動できたか	通学マナー向上のための安全セミナーを実施し、日常的な指導も継続した。重大事故の発生はなかったが、ごく一部の生徒に「見られているときだけ守る」状況があり、生徒の自主的な取り組みの促進と意識の内面化が今後の課題。
	生徒会活動の活発化を図る	生徒会執行部を中心とした中央会議の組織活動の活発化の推進 生徒中心の自主的な活動の推進	新たな委員会が機能したか 生徒会による取り組みが従来通り機能しているか	生徒会執行部を中心に中央会議を活性化し、委員会再編を実施。生徒主体の活動は増えているが、教員の関与度合いに試行錯誤がみられる。生徒からは学校改善の自主的提案が出ており、自治意識は高まっている。
	(2) 各種セミナーを通して正しい知識を身につけ、自己判断力の向上を図る			
	食育、ネット、防犯・防災、薬物乱用防止等のセミナーを開催する	食育、ネット、防犯、防災、薬物乱用防止などの各種セミナーの実施	食育、ネット、防犯、防災、薬物乱用防止などの各種セミナーの100%実施ができたか	食育、ネット、防犯・防災、薬物乱用防止のセミナーを計画通りすべて実施。生徒の安全意識向上に貢献し、保護者からも高評価を得た。今後は知識習得だけでなく、生徒が主体的に問題解決力を高める内容へと発展させることが課題。

1. 今後、重点的に取り組む目標・計画

自己評価と学校関係者評価を踏まえ、今後の学校運営と教育活動の改善点を以下にまとめる。全体として、生徒主体の学びの推進や選択制授業の導入により、学習への肯定的評価は高まっているが、さらなる改善のため以下の点に重点的に取り組む。

① 教育基本方針の実践強化

創立者の哲学を学ぶ創価道德プログラムは体系化が進んだが、形式的になっている面も見られる。創立精神をより実質的に伝える工夫と、3年間の系統的な学習プログラムの確立に取り組む。ユネスコの理念と日常の学校生活の一体化も進める。

② 主体的・対話的で深い学びの発展

英語・数学の選択制授業は82%の生徒が主体的に選択できたと評価しているが、学習層によってはマッチしていない場合もある。個別最適化をさらに推進しつつ、探究的な学びやプロジェクト学習を充実させる。

③ チーム担任制の改善

生徒が多く教員と関われるようになった一方、保護者からは「誰に相談すればよいかわかりづらい」との声がある。教員の人となり伝える機会を増やし、相談窓口を明確化する。

④ 情報共有の強化

オープンキャンパスなどの情報が地域組織に遅く伝わる問題がある。学園の良さをより積極的に発信し、月間予定の詳細な配信など情報提供の方法を改善する。

⑤ 学習負担の適正化

定期テストがなく常に単元テストがある制度は不器用な生徒に負担が大きい。班活動も含め学習負担の適切な分散と、テストのタイミング調整などの工夫を行う。

⑥ 生徒の自主的活動の促進

生徒会活動や委員会活動の再編により、生徒からは学校改善の自主的提案が増えている。通学マナーなど生徒が主体的に課題解決に取り組む機会をさらに増やす。

2. 今後の学校運営のあり方

変化の激しい時代において、本校の教育は世界的視野を持ち、歴史的変動の時代を切り拓く人材の育成を目指している。「最大の教育環境は教師自身である」という創価教育の精神に基づき、教員の資質向上に努める。

具体的には以下の3点を特に意識して取り組む。

- 一、保護者や学校関係者からの評価を謙虚に受け止め、常に改善に努める。
- 一、「育てたい学園生像」に即した教育内容の充実と学校運営の見直しを行う。
- 一、教員研修の充実と校内での学び合いを促進し、教育力の向上に努める。